

平成28年度自己評価シート(年度末評価)

校番	18	学校名	大栴高等学校	校長氏名	細川 洋	◎・定・通	◎・分
学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値			
1 教育内容の特色化を図り、社会人基礎力を身につけた生徒を育成する。							
前に踏み出す力(アクション)の育成 進路実現100%	進学率・就職率	100%	100%	100%	A	・進学希望者、また就職希望者の進路実現を達成させることができた。	進路指導部
	オープンキャンパス・応募前見学の参加	100%	100%	100%	A	・体験的な学習を通して自己理解を深め、進路実現に結びつけることができた。	
考え抜く力(シンキング)の育成	学力調査 学校平均通過率	35.6%	40.0%	35.7%	C	国 A 50.6% 国 B 45.8% 数 A 34.8% 数 B 25.2% 英 A 32.0% 英 B 25.9% 数学・英語は、全体的に下がったが、国語は上昇した。	教務部
	「学び直し」による基礎学力の向上(認定テスト最高級合格率)	79.4%	80.0%	70.0%	C	国語は上昇したが、英語が大幅に下降した。	
チームで働く力(チームワーク)の育成	部活動加入率	42.5%	48%	57.0%	A	文化部・体育部共に増加し放課後に活動する姿や声や音が増した。	生徒指導部
	違反者数	ピアス着用者 12人	ピアス着用者 3人	ピアス着用者 2人	B	着用が明らかである生徒の姿が減り、着用をやめた生徒が出てきた。	

【評価結果の分析】

(進路指導部)

- ・進路ガイダンスを充実させながら生徒個々の進路希望に沿った指導を実践した結果、オープンキャンパスや応募前見学なども貴重な進路情報の場であることを認識させて全員参加させることができた。
- ・生徒それぞれの進路希望について個人面談を繰り返し行い、面接や作文指導を徹底した。また、外部講師を招聘して面接やマナーについての指導を充実させたことにより、目標としていた100%の進路実現も達成させることができた。

(生徒指導部)

- ・教職員全員が、服装指導等について、気づいたときに注意と改善指導を粘り強く行った成果が徐々に現れてきた。部活動においては個別に加入の声掛けを行い、各部の活動について学校全体で支える体制が加入率の上昇につながった。

(教務部)

- ・授業規律が徐々に確立され、教員の授業の工夫も行われているが、結果として学力の向上には結びついていない。

【今後の改善方策】

(進路指導部)

- ・生徒の自己理解等の状況を重要として取組をはかった結果、就職希望者全員が内定を得られたのが3学期となった。来年度は、生徒への就労観を育成させるための取組を夏季休業までに実施し、9月の就職一次試験で全員合格させる。
- ・進学を希望する生徒について、模擬テストの実施や、早朝・放課後等の自主学習への支援を行い、希望する学校への全員合格を目指す。また平成30年度以降には国公立の合格者が輩出できるよう、1・2年生の進学希望者の学力向上については重点的に指導する。

(生徒指導部)

- ・服装や挨拶について個別の指導を焦点化したキャンペーンを来年度も定期的に実施し、その成果を全員で共有し、以後の指導に継続させる。また、各行事で生徒が輝く(主体的になれる)場を設定し、その振り返りを確実に実施しながら改善に努める。

(教務部)

- ・少人数の特性を生かし、生徒個々の状況に応じたきめ細かい指導を各教科間の連携を深めて行う。指導方法などについてお互いの授業観察や教科代表者会議などで検討し改善する。

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	目標値			
2 検定合格・資格取得等を推進し、それぞれの分野で輝くことのできる生徒を育成する。							
検定合格・資格取得等の取得	英検・漢検・商業・情報検定の合格率	57.8%	65.0%	52.0%	C	商業・情報検定の合格率90.8% 漢字検定の合格率21.6% 漢字検定の合格率の向上が必要である。	教務部 各教科
	資格取得及び学力補充のための放課後補習への生徒参加率	27.3%	30.0%	40.3%	B	夏季休業中に、3年生が進路決定に向けて取り組んだ。 1月より勉強クラブが発足し、早朝・放課後の補習が定着した。	

【評価結果の分析】

(教務部)

- ・商業・情報関係の資格取得については、ワープロ・表計算・プレゼンテーション・ホームページ・簿記・電卓等様々な資格取得に挑戦させることができ、初段や1級など上級を取得する生徒が増加し、意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・漢字検定の合格率の平均が毎年20%前後であり、合格率を向上させる取組が必要である。
- ・中学校の学習範囲に取り組む「まなびなおし」では、国語については、概ね中学校レベルまでの学習内容には到達しているが、数学・英語については、個々の能力に応じて学習に取り組む必要がある。

【今後の改善方策】

(教務部)

- ・資格取得に向けて個々の目標設定を具体化させ、年間または3年間を見通して段階的に資格取得ができるよう、生徒の指導を行う。また、資格取得が自分の進路実現を可能にすることだけでなく、短期目標を設定してそれを達成することの積み重ねが人間形成にとって大事であることを実感させる。
- ・個別の指導により、自主的・主体的に授業以外で学ぶ生徒を増やしていく。それぞれの生徒の進路実現に向けて進路指導部や学年と連携し、「学ぶ雰囲気」を醸成する。

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値			
3 将来「大柿高校で学んでよかった」と言われ、学校・江田島を誇りに思い、地域に貢献できる人材を育成する。							
信頼され、期待される学校づくり	生徒・保護者の学校への信頼度・満足度	生徒 85.9% 保護者 97.8%	生徒 90.0% 保護者 95.0%	生徒 90.1% 保護者 90.4%	B	生徒の満足度は達成できたが、保護者の満足度が低下した。	教務部
	地元中学生本校入学率 (入学者／市内中学3年生数)	11.3% (17/150)	20.0%	17.1% (26/152)	B	昨年より9名増であるが目標には達していない。	
	全校生徒数	68名	80名	78名	B	昨年より10名増であるが目標には達していない。	
	地域への情報発信 (HP・柿高News)	HP 67回更新 News 12回発行	HP 70回更新 News 12回発行	HP 55回更新 News 12回発行	A	地域への情報発信はあらゆる場を通じて積極的に行った。	

【評価結果の分析】

・今年度、生徒・保護者からの学校に対する期待（希望）がかなり高くなった。この背景には学校の存続に向けた学校改革と個々の進路実現に向けて学校に期待しているからである。その期待にすべて応えることができていないことが、信頼度・満足度の低下につながっている。

・今年度復活させた体育祭や、グラウンドの芝生化、公営塾、江田島市全中学3年生参加のオープンスクールなど新たな取組を開始し、そのことを積極的に情報発信した。また江田島市内全域に情報が届くように柿高Newsも全域に配付している。開かれた学校として情報発信だけでなく「毎日が公開授業」としていつでも、誰でも、何回でも授業参観できるようにし、そのことで生徒が成長できるようにした。その結果、昨年度より生徒数は増加し、地域からの期待される声も多くなったが、結果的に目標値は達成できていない。また、大柿高校に対する根強い不信感をすべて払しょくできているわけではなく、引き続きの取組が必要。

【今後の改善方策】

- ・地域の信頼回復、特に中学校の生徒、保護者に対して重点的に情報発信する。柿高Newsの全員配付の継続や卒業生訪問、中学校と連携したボランティア活動での本校生徒のリーダー的活躍、部活動での連携を積極的に行う。
- ・総合的な学習や学校設定科目の「地域探究」を今後も活性化させ、地域から学ぶだけでなく、江田島市内外へ向けての情報発信や地域活性化に向けての提言ができるよう取り組む。

年度末自己評価

評価	A	B	C	D
基準	目標を完全に達成した	目標を概ね達成した。	目標をあまり達成できなかった。	目標をまったく達成できなかった。

平成 28 年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	18	学校名	大柿高等学校	校長氏名	細川 洋	全・定・通	本
----	----	-----	--------	------	------	-------	---

1 評価結果の分析

(1) 成果

(進路指導部)

・生徒個々の進路希望に沿った指導を実践し、それぞれにオープンキャンパスや応募前企業見学に参加させることができた。また、作文指導や面接練習の徹底、マナー等について外部講師を活用することで進路実現 100%を達成することができた。

(生徒指導部)

- ・教職員全員が気づいたときにすぐに注意し、粘り強く改善指導することで服装違反者は減少した。
- ・部活動を学校全体で推進する体制を構築し、個別の声掛けを繰り返すことで加入率は上昇した。

(教務部)

・授業規律が確立され、教員の授業の工夫もされているが学力の向上には結びついていない。
・資格取得について個別の指導を徹底し、より上位の資格に挑戦する生徒が増加した。その結果、初段や 1 級の資格を取得する生徒も増加した。

(2) 課題

(進路指導部)

- ・全員の進路決定が 2 月であった。特に就職については 9 月の 1 次試験で合格できるような取組が必要である。
- ・大学進学者がゼロであった。

(生徒指導部)

・生徒の規範意識はかなり高まったが、一部繰り返し指導される生徒が存在する。

(教務部)

- ・漢字検定の合格率が毎年 20%前後であり、合格率上昇に向けての取組が必要である。
- ・基礎学力の充実について、習熟度の徹底や教材の工夫が必要。

2 今後の改善方策

(進路指導部)

- ・3 年生の就労感を育成する取組を夏季休業までに実施し、9 月の 1 次試験で就職希望者全員を合格させる。
- ・進学を希望する生徒については、模擬テストの実施や、早朝・放課後の自主学習の支援を行い、希望する学校への全員合格を目指す。また、平成 30 年度以降には国公立の合格者が輩出できるよう、1・2 年生の進学希望者の学力向上については重点的に指導する。

(生徒指導部)

・服装や挨拶について個別の指導を焦点化したキャンペーンを来年度も定期的に実施し、その成果を全員で共有し、以後の指導に継続させる。また、各行事で生徒が輝く(主体的になれる)場を設定し、その振り返りを確実に実施しながら改善に努める。

(教務部)

- ・少人数の特性を生かし、生徒個々の状況に応じたきめ細かい指導を各教科間の連携を深めて行う。指導方法等についてお互いの授業観察や教科代表者会議で検討し改善する。
- ・資格取得に向けて個々の目標設定を具体化させ、年間または 3 年間を見通して段階的に資格取得ができるよう生徒の指導を行う。
- ・「学ぶ雰囲気」の醸成に向け、進路指導部や学年会と連携し、個別の指導を徹底して自主的・主体的に授業以外で学ぶ生徒を増やす。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- ・中学校生徒、保護者の願いである①国公立を含む大学進学、②安定企業への就職、③高校生活の充実に向け文武両道を徹底し、その様子を積極的に情報発信する。
- ・生徒が学ぶ意欲につながる資格取得や基礎学力の補充について丁寧な取組がなされているので、今後も全教職員が一丸となって取り組んでいく。また、現状に満足せず、より高いレベルを目指す。
- ・少人数の特性を生かし、生徒自身が教師から認められていると実感できるような人間関係をつくりあげるために、生徒が少しでも努力して向上の後が認められたときはそれを見逃さず評価していく。
- ・78 名で 29 年度はスタートするが、入学した生徒に対し、全教職員集団で全力で愛着を持って指導し、中途退学者を出さないようにする。

平成 28 年度学校関係者評価シート(年度末評価)

平成 29 年 3 月 28 日

校番	18	学校名	大栴高等学校	校長氏名	細川 洋	全・定・通	本
評価項目	評価	理由・意見					
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導、個別指導で生徒の実態に沿った細かな計画となっており適切である。 ・中学校の生徒、保護者の願いは①大学への進学(国公立を含む)、②安定企業への就職 100%、③高校生活(部活動・学校行事)の充実だと思う。願いを実現できる学校であってほしい。 ・生徒の実態に即した目標、指標、計画が設定されており適切であるとする。特に、生徒一人一人の基礎力を向上させる取組が多く仕込まれている。 					
目標の達成状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・評価「C」となっているのが「考え抜く力の育成」と検定であることについて、一人ひとりの学習面の向上目標を設定し、それを教師が評価し、生徒が学習へのモチベーションを継続して持てるよう、教師が根気強く寄り添うことが大切。 ・適切である。 ・自己評価は適切にされている。生徒の実態を考えると、目標をクリアしている項目に限らず職員の努力がうかがえる。 					
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校長の卓越な企画力と指導力のもとに、新管理職がスクラムを組んで取組んでいることが評価される。 ・適切であると思いたい。 ・生徒が学ぶ意欲につながる資格取得や基礎学力の補充など丁寧な取組がなされていると思う。また、情報発信も的確に行っており、生徒・保護者に限らず、地域に学校の状況が理解されていくものと思う。 					
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・適切である ・熱意をもって指導があれば、やらせてみればできる生徒たちであるとの生徒観に感銘した。 ・前向きで適切と考える。 ・目標はクリアされており、課題も細かく分析されている。 					
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒数 78 名という少人数の特性を生かし、生徒自身が教師から認められていると実感できるような人間関係を作り上げてほしい。また、本人が少しでも努力して向上のあとがみられたときはそれを見逃さず評価し、自信につながるきめ細かい指導を期待する。 ・さまざまな評価項目があるが、説明には説得力があり、学校が自己評価してまとめられた分析評価には間違いはないと確信した。 ・高いレベルを目指しながら、一つ一つクリアしてほしい。 ・特色ある学校づくりの取組を充実させ、中学生・保護者・地域へ期待されていく学校となっていくので、さらに取組を推進してほしい。 					
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・78 名で 29 年度スタートするが、入学した生徒に対し、全教職員集団で全力で卒業まで愛着を持って指導するという決意と覚悟で接していただき、決して中途退学者を出さないことを願っている。 ・先生方も生徒も明るくなってきたと思う。しかし、現状はまだまだ変わらぬと思う。 ・校長先生をはじめ職員の地道な取り組みにより成果は顕著に表れていると思える。 					